

北消防署小型水槽付消防ポンプ自動車（CD-I型）仕様書

第1 総則

1 仕様

本仕様書は、吹田市消防本部（以下「当本部」という。）が、令和6年度消防車両更新事業として購入する、小型水槽付消防ポンプ自動車（CD-I型）（以下「小型タンク車」という。）の仕様について定める。

2 関係法規

この小型タンク車は、本仕様書に定めるものの他、緊急消防援助隊設備整備費補助金交付要綱及びポンプ自動車の安全基準に定められた規格に適合するもので、道路運送車両法等関係法規に適合し、緊急自動車として承認が得られるものであること。

3 承認図

当本部との契約業者（以下「艀装業者」という。）は、小型タンク車のシャシ及びポンプ等艀装製作にあたり、下記の書類を承認図として当本部へA4ファイル綴りで2部提出し、承認を受けたのち製作を開始すること。

なお、承認図提出前に当本部と製作車両の艀装について十分協議し、当本部の仕様を十分に反映させること。

- (1) シャシ及びポンプ等艀装製作工程表
- (2) 一般艀装図シャシ及びポンプ等艀装
 - ア) 五面図「正面・左右側面・後面・上面」
 - イ) ボックス内艀装図・配置図
 - ウ) オーバーヘッド・センターコンソール取付艀装図・配置図
 - エ) キャブ内艀装図・配置図
 - オ) キャブバック艀装図・配置図
 - カ) 車体組立図（補強材料及び組立寸法図）
- (3) ポンプ組立図
- (4) ポンプ架装図
- (5) 配管系統図
- (6) 電気系統図
- (7) 軌跡図
- (8) 艀装諸元明細書
- (9) 積載資機材一覧表及び重量表
- (10) ホースカー図面
- (11) その他当本部の要求する書類

4 疑義

本仕様書並びに製作中に疑義が生じた場合は、早急に当本部の指示を受け処置すること。

5 車両管理

艀装業者は、納車するまでシャシ納入業者と連絡を密にして十分な打合せを行い、相互協力のうえ工事の円滑を図ること。

また、車両の管理には細心の注意をはらうこと。車両の管理中に不都合な箇所が発生した場合は、早急に原状回復させるとともに当本部へ報告すること。

6 留意点

製作にあたっては、特に次の点に注意すること。

- (1) 軽量、頑丈、優美であること。
- (2) 積載品は、取付け取外し、収納及び取り出しが容易に行えること。
- (3) 艀装製作全般にわたり、厳重検査を実施すること。
- (4) 本仕様書で明記していない箇所で、艀装するうえで当然すべきことは、艀装業者で責任を持って実施すること。
- (5) 同等品以上を使用する場合は、質疑期間中に機種本体及び仕様を示す資料を当本部に掲示し、審査を受けること。同等品の解釈は当本部の判断によるものとする。

7 検査

艀装業者は、当本部が実施する下記の検査に立ち会い、検査において不都合な箇所を発見の際は、速やかに処置すること。

なお、検査に係る一切の費用を負担すること。検査は当本部の検査員が3名から4名で実施するものとし、艀装完成時の検査では当本部が別に指定する検査員に対し車両説明を行うものとする。

- (1) 中間検査 シャシ艀装、ポンプ等艀装
- (2) 完成検査 シャシ艀装、ポンプ等艀装（転覆角度測定検査・重量測定検査）

8 責任の所在

設計、製作材料等について、特許、その他権利上の問題が起こったときは、艀装業者がその責任を負うこと。

また、納入後に発生した艀装箇所の不具合についても、シャシ側、艀装側を問わず艀装業者が一切の責任を負うこと。

9 新規登録検査

完成車は、積載予定器具等を全装備し、運輸支局で新規登録検査を受け、合格後、燃料タンクを満量にして当本部へ納入すること。

なお、艀装業者はシャシ納入業者と協力して新規登録に関する事務の一切を行うこと。

10 保証

保証期間は、シャシ、ポンプ本体及び真空ポンプ等の重要機構は納入後2か年以上、その他は1か年以上とする。

ただし、設計不良、材質等に起因する不都合な箇所を発見の際は、保証期間後であっても無償にて取替え又は修理を行うこと。

11 提出書類

完成車納入の際は、次の書類を提出すること。

(9) から(12)までを除く書類については、A4サイズのファイル1冊(2部)に綴り当本部へ提出すること。(4)及び(13)の各1部については新規登録検査後、ただちに当本部へ提出すること。

- | | |
|------------------------|----|
| (1) 自動車改造計画書 | 2部 |
| (2) 車両重量実測表及び計量証明書 | 2部 |
| (3) 車両取扱説明書 | 2部 |
| (4) 自動車検査証の写し | 3部 |
| (5) 消防ポンプ自動車受託試験合格証の写し | 2部 |
| (6) ポンプ性能試験成績表 | 2部 |
| (7) 構造及び取扱い説明書 | 2部 |

- (8) 構造及び取扱い説明（動画及びパワーポイント等） データファイル
- (9) 納品書 1部
- (10) 納品内訳明細書 1部
- (11) 請求書 1部
- (12) 請求内訳明細書 1部
- (13) 完成車写真（A4紙1枚に前後（ナンバープレート入り）・左右・
の写真4枚を収めカラー印刷したもの） 3部
- (14) 転覆角度測定証明書・重量測定証明書（写しを含む） 各2部
- (15) 各種資器材取扱い説明書等 2部
（取扱説明書が無い場合は、カタログ等で諸元が記載されているもの）
- (16) その他当本部の要求する書類

12 納入期限及び納入場所

納入期限は、令和7年3月31日（月）とする。納入場所は、当本部が別途指示する。

13 その他

- (1) 本仕様書に明記されていない点は、各業者公表の標準仕様とすること。
- (2) 納車日から1週間以内に、シャシ取扱い説明を1回以上、艤装等の取扱い説明を2回以上実施するほか、納入資器材で当本部が取扱い説明を必要とするものについても実施すること。
なお、資器材の取扱い説明については、当本部の車両運行開始日までに艤装業者が資器材納入業者と調整を行い実施するものとする。

第2 車体構造

1 完成車両諸元

完成車両の諸元は、道路狭あい地域を克服できるように次のとおりとするが、可能な限りコンパクトに仕上げること。

- (1) 全長 約5,850mm
- (2) 全幅 約1,920mm
- (3) 全高 2,980mm以下 厳守
- (4) ホイールベース 2,750mm以上
- (5) 乗車人員 5名以上
- (6) 車両総重量 7,200kg未満

2 シャシ関係

(1) シャシ

国が示すCD-I型消防ポンプ自動車の艤装が可能で、ディーゼルエンジン・マニュアルミッションを搭載した低床型4輪駆動車とし、ポスト新長期の排ガス規制をクリアした次のメーカー公表の最新型車とすること。

トヨタ製 3トンシャシ又は同等品とすること。

(2) 主要諸元

- ア) オルタネーター 24V-80A以上
- イ) タイヤ サイズ205/85R16 「マッド&スノー」
ラジアルタイヤ、アルミホイール
スペアタイヤ1本含む

ウ) 乗車定員	5名
エ) 燃料タンク	600以上
オ) エンジン回転計	
カ) エンジン油温計	
キ) ブレーキ	ABS装置
ク) オイルパンヒーター	差込部は車外マグネットコンセント・コード15m付
ケ) 間接冷却器	
コ) オイルクーラー	
サ) バックモニター	ルームミラー型
シ) フォグランプ	
ス) サイドミラー	2面鏡式(助手席電動格納式ワイドビュー)
セ) ドライブレコーダー	Driveman PS-2 タイプ2 (SDカード [※] 脱着式モデル)
ソ) キャブチルト装置	
タ) 音声アラーム	
チ) 後退警報器	
ツ) 坂道発進補助装置	
テ) ポンプ駆動用PTO	

第3 概要

1 車体概要

この小型タンク車は、エンジンの動力を水ポンプに伝える装置を搭載し、オールシャッター式でダブルキャブの後方に600リットルの小型水槽（FRP製）、ポンプ室、器材収納庫を設け、後部にはホースカーを備えた車両であること。

また、各資器材等を安全迅速に取出し出来る構造とすること。

2 消防ポンプ

シャシ固有の動力伝達装置に、ポンプ室のスペースを有効に活用でき、摩擦損失が少なく十分な放水量を確保できる一段ポリュート式水ポンプを装備し、河川、消火栓等の水利から強力な放水ができ、火災に対してすみやかに活動できる車両であること。

3 車両形状

- (1) ボディは軽量化を図り箱型とし、左右側面各2枚、後部（背面）1枚が手動式アルミバーシャッターとすること。
- (2) シャッターが走行中に異音を発することや、器材収納庫内に雨水等が入ることのないように高品質パッキンを使用すること。
- (3) 車体天井部はアルミ縞板張りとし、左右立ち上がり部分の内側についてもアルミ縞板張りとすること。
- (4) 車両構造は、軽量化を図るため主要材料をアルミニウム合金等とし、必要部分には鋼材を用い十分な強度を有する構造とすること。

4 キャブ

- (1) ダブルキャブの4ドアで、全席にシートベルトを設け、後部座席前に手摺りを取り付けること。

各ドアはヒンジ部を強固なものとし、折損、脱落等の恐れがない構造とすること。

- (2) 各ドアのロックは全席電気式集中ドアロックとすること。
- (3) キャブ内後部の張出し部分にウォーカーウェイ（エアウォーター防災製ブルネッカー530Ⅲ及びドレーゲルPSS AirBossに対応）3基取付け、残りスペースにはフック・ネット及び物入れボックスを設けること。（別途協議）
※指定呼吸器で納入前に取付け取外し確認を必ず行っておくこと。
- (4) 後部座席上方に呼吸器用とは別に大型折り曲げ式フックを5箇所以上取付けること。
- (5) 内天井の前席中央付近に2箇所及び後席左右に各1箇所収納ネットを取付けること。
- (6) 前席と後席の間にステンレス製で強固な手摺りを設け、その手摺り棒に地図等を収納するボックス（A3サイズ以上）を中央席側に設けること
また、取付けにあつては足元のスペースが十分に確保できるよう斜めに取り付けること。（別途協議）
- (7) オーバーヘッドコンソールボックス及びダッシュボードの指示する位置に無線機、電子サイレン、ICレコーダー、指令端末装置、各電装スイッチ、エッチングプレート等を取付けすること。
（無線機及び指令端末装置の取付けは業者と十分に協議して行うこと。）
- (8) 消防章（直径約150mm）を車体前面に取付けること。
- (9) キャブ左後方に旗立てパイプ（水抜き、ロック付き）を設けること。
- (10) 車両整備用としてフロントバンパーを前出しアルミ縞板付きとすること。
- (11) 室内照明
 - ア) キャブ内天井には、LED照明灯を埋込み式で2器取付けること。
 - イ) 照度は蛍光灯20Wと同等以上の照度とすること。
 - ウ) スイッチはキャブ中央ピラ左右に各1箇所設置し、階段スイッチとすること。
 - エ) 助手席ピラ付近及び後部ピラ付近に蛇管式LEDマップランプを取付けること。
- (12) 後部座席手摺りフロント側に、携帯拡声器を収納するフォルダーを設けること。

5 ポンプ室

- (1) ポンプ室はポンプの補修に必要な個所が取外しできる構造とすること。
- (2) ポンプ点検口は可能な限り大きく設けること。

6 座席

- (1) 助手席には、飛鳥車体制の空気呼吸器一体型シートを設け、スペースには、ウォーカーウェイ（エアウォーター防災製ブルネッカー530Ⅲ及びドレーゲルPSS AirBossに対応）1器を取付け、走行中の脱着が容易に行えるようにすること。
また、助手席側中央ピラには、助手席で使用する呼吸器の面体等を掛ける2段フックを取り付けること。
- (2) 前席中央部には、運転者がシフト操作時に支障のない大きさと収納箱を設けること。収納箱はA4サイズファイルが収納できる蓋付のものとし、収納箱前方には無線機等を収納するホルダーを2個設けること。

また、収納箱後部には、パンチングボードを4面に使用した縦入れ型のA4ファイル書類立てを設けること。(別途協議)

なお、走行中に、収納箱上部に置いている個人装備品等が落下等しないように、バンド等で固定ができる構造とすること。

(3) 助手席は、エンジンオイル等点検のため座席を起し固定できるものとする

こと。

7 側板

ボディ側板及び各ステップ部の材料は重量軽減、防錆を考慮し可能な限りアルミニウム等を使用し、端部周辺は折り曲げ構造とすること。

8 ステップ、手摺り

(1) 後部座席ドア下部に、サイドステップを延長し、有効なステップを設けエプロンを取付けること。(引出し式バッテリーが容易に引出せるように艤装すること。)

また、センターピラ及び後部ピラに手摺りを取付けること。

(2) 資器材の積み降ろしが容易にできるように、車両左右に有効なステップ及び手摺りを取付けること。

(3) 車両後部(背面)に、昇降用折りたたみ式タラップ(横棧滑り止め加工)を設置すること。

(4) その他、当本部が指示する個所にステップ及び手摺りを設け、指示する箇所に色付けをすること。

(5) フロントグリル上部には車外グリップを取付けしないこと。

9 はしご昇降装置

車体上部左側に三連はしごを積載し、昇降装置は地上から操作が可能な手動式の後方展開式(ローラー方式)で容易に取り出すことができる構造とすること。

また、三連はしごと対象となる位置若しくは付近に一連梯子を積載すること。

(※一連梯子の積載場所は別途協議)

10 ホースカー及び積載方法

(1) ホースカー(詳細別途協議)

ア) ホースカーは65mmホースが6本以上積載できる、制動装置付きのものとする

こと。

イ) 内側に防水カバー(取外しできるもの)を取付けること。

ウ) 上部は資機材が搬送できるように周囲に枠及び固定装置を設け、容易に取り外しができること。

エ) e-ノズル65mm管そう1本、分岐管2式を取付けること。

オ) 後部シャッター内の上部収納庫を大きく確保するだけでなく、10(1)ア)からエ)を満たすことができるホースカーとすること。

(2) 積載方法

ア) 車体後部に加納式で積載すること。

イ) 傾斜等であっても、引っ掛かり等なく容易に取り出し収納できること。

ウ) 運転席及び車体後方でホースカーの収納等が確認できる、安全対策(警報装置等を講ずること。

第4 主ポンプ

1 放水能力

自治省令で定めるA-2級の規格に合格するとともに、次の数値以上の能力を有すること。

- (1) 規格放水圧力0.85MPaにおいて2.0m³/min以上
- (2) 高圧放水圧力1.4MPaにおいて1.4m³/min以上
- (3) アルミ製高圧一段ポリウレタンポンプ（インペラーは青銅鑄鉄）とする。

2 取付け

ポンプは、シャシに堅ろうに取付け、振動等により移動、ゆるみが起こらないよう配慮すること。

3 軸受部

軸受部分については、不凍液等を使用しないメンテナンスフリーのメカニカルシール方式とすること。

4 ドレンコック

- (1) ポンプ本体下部にドレンコックを設け、排水が車両構造等にかからないよう配慮した構造とすること。
- (2) ドレンコックはポンプレバーと連動式とすること。

第5 真空ポンプ

1 性能

真空ポンプは、ボックス内の資器材積載スペース確保及び凍結による不具合予防のため、コンプレッサーから排出される空気により、自然原理を利用し真空形成する構造とし、性能については、次のとおりとすること。

- (1) 吸管外端閉塞にて、30秒以内に大気圧の84%に達すること。
- (2) 漏気は、30秒間に1.3KPa以下であること。

2 動力伝達装置

駆動装置は、円滑に作動し振動や騒音が少なく、揚水完了後は自動で停止するものとする。

3 クラッチ

クラッチは、ポンプ揚水後ポンプ圧力が0.3MPaに達する前に自動的に離脱する構造であること。

4 排水

真空ポンプの排水は、手動ブレーキ、排気管及び電気配線等にかからないよう下方へ設け、シャフト下部まで排水管を取り付けること。

5 操作

真空ポンプの操作は、押しボタン式スイッチとし、車体左右に取り付けること。また、非常用の別系統スイッチ及びメーターを車両右側に設けること。

第6 吸水装置

1 吸水口

吸水口は、75ミリのボールコック（ストレーナー付）をポンプ室両側に各1口設けること。

2 吸水管

(1) 車体右側用

75mm×10mの軽量吸管及び吸水管用器具（スーパースイング）を接続し、車両後部収納庫内に収納装置を設け固定すること。

また、吸水管外端部には吸管引揚金具（バンド付き）を取付けすること。

(2) 車体左側用

左側吸水口には、消火栓金具（75mmメスネジ×65mm差込メス）を設けること。吸水管については、75mm×2.5mのネジ式棒吸管4本を、車両上部に積載品として納めること。棒吸管外側部に消火栓金具（75mmメスねじ×65mm差込メス）1個を取り付けること。

3 配管

吸水配管は、流水抵抗をできる限り少なくするよう努め、排水が完全にできること。

4 吸水装置

通水確認できる透明ボール付きのエゼクターバルブを左右に取り付けること。

透明ボールは容易に取り外しできること。

第7 中継吸水口

1 中継吸水口は、65ミリのボールコック式（ストレーナー付）とし、ポンプ室両側に各1口を設けること。

また、中継吸水口には、中継用媒介金具を取付けること。

2 パイプ、ボールコック等の排水が完全に出来る構造とすること。

第8 吐水装置

1 自動放口閉塞弁

(1) 吐水配管を外すことなく修理が可能な構造とする。

(2) 車体が傾斜しても自動的に閉じる構造とする。

2 吐水口

(1) 吐水口は、65ミリのボールコック式とし、ポンプ室両側に各2口設けること。

また、吐水口には放口媒介金具を取付けすること。

(2) ボールコックは高圧においても容易に開閉操作ができ、排水が完全に出来る構造とすること。

3 吐水配管

(1) 流水抵抗の少ない構造とする。

(2) 配管の排水が完全に出来るような構造とすること。

第9 冷却水配管

1 水源

エンジン及びギヤケース冷却のため、冷却水配管を吐水配管より取出し設けること。冷却水を水槽に戻すための装置を取付けること。

2 配管

配管は1系統にまとめ、1個のバルブで調整できること。

3 予備回路

バルブは、予備回路を設け、それぞれにストレーナを設けること。

第10 ポンプ操作装置（操作機構）

- 1 車両左右に、圧力計、連成計、ポンプスロットル、真空ポンプ作動、停止スイッチ、P T Oスイッチ及び多目的液晶表示装置（以下「液晶ディスプレイ」という。）を一体化した操作盤を設けること。なお、操作性を考慮した液晶ディスプレイとし、スイッチは可能な限りボタン式とすること。
- 2 圧力計、連成計及びポンプスロットルは電子式とすること。
- 3 各操作レバー、スイッチ及びコック等の付近には、ネームプレートを取付けること。
- 4 各配管とも完全に排水できるようにドレンコックを取付けること。ドレンコックは隊員が容易に操作できる位置に設けること。
- 5 流量計装置をポンプ室右側第1、2放口、左側第1、2放口ボールコック配管のポンプ側に流量検出部を設けること。
 - ア) 流量検出部は、吐出配管の直管部分（可能な限り長くする。）に設け、清掃等が容易に行えるように設けること。
 - イ) 流量表示等も液晶ディスプレイ内に表示すること。
- 6 自動調圧装置を取り付けること。
- 7 水量計を液晶ディスプレイ内に表示すること。

第11 水槽

- 1 容量は、600ℓ以上とし、重量配分を考慮した腐食に強いFRP製水槽を設け、水槽左右に各1個（差込メス金具）積水口（受口キャップ、クサリ付）を設けること。
- 2 水槽上部にマンホールを設け、メンテナンスが容易に行えること。
また、水槽下部にはドレンバルブを設けること。
- 3 水量計は左右に設けること。水量の確認が容易にできる水量計（ゲージ式100ℓ毎の目盛付き）を設けること。
- 4 オーバーフロー用パイプを設けること。
- 5 水槽からポンプへの配管及び吸水コックは内径75mm以上とする。
- 6 水槽積水配管には逆止弁を設けること。
- 7 水槽保護及び誤操作防止のため、タンク吸水コック開放時に、中継口又は、吸水口を開放すると、自動的にタンク吸水コックが閉まる構造とする。
また、中継口又は、吸水口を開放時には、タンク吸水コックが開放できない構造とする。
- 8 水槽からポンプへ迅速に水を送るため、通常時タンク吸水コックを開放すると、自動的に真空ポンプが作動する構造とする。

第12 圧縮空気泡消火装置（以下「CAFS」という。）

- 1 本装置は、水ポンプから送られてきた水を利用し、混合器で作られた混合液にコンプレッサーを用いて圧縮空気を送り込み、配管内部で泡状にして発泡できる装置で、少量の水で効率のよい泡消火ができるものとする。
また、発泡倍率が5～10倍で設定可能な消火及び火炎鎮圧用湿式泡（ウエット

泡) と、発泡倍率が 1.6 ～ 2.0 倍で設定可能な延焼防止及び残火処理用乾式泡 (ドライ泡) の 2 種類の泡について、吐出可能なものとする。

2 性能

最大水流量 6000 /min 以上、最大空気吐出量 3,2000 /min 以上とし、最大泡吐出量 3,8000 /min 以上とする。

3 構造

(1) 本装置の操作は、左右ポンプ室付近に設けた液晶ディスプレイで行えるものとし、揚水状態から 1 回の画面操作で C A F S 操作モードに切り替えができるものとする。

(2) 湿式泡と乾式泡の切替え操作は、左右ポンプ室に設けた液晶ディスプレイボタンスイッチにてワンタッチで行えるものとする。

なお、湿式泡、乾式泡の切り替え操作 (発泡倍率) 及び混合比率の設定変更は、泡放射中でも可能な構造とすること。

(3) 泡吐水口はポンプ室左右前側の水ポンプ吐水口を使用して、コック操作で容易に泡放水と水放水の切り替えが可能な配管構造とすること。

また、専用の泡吐水口は設けないこと。

(4) 泡放水から水放水へ容易に切り替え可能なように、配管内に逆止弁を設け、吐水残圧を抜くことなく、水放水操作モードに切り替えができるものとする。

また、C A F S 操作モードから水操作モードへの切り替えは C A F S 停止状態からワンタッチで可能なものとする。

4 コンプレッサー

(1) オイル循環式のロータリースクリュー型コンプレッサーとし、コンプレッサーの潤滑油は補助冷却器により冷却する構造とすること。

なお、補助冷却器は圧力水の一部の水により冷却されるものとし、切替えにより、水槽への還流及び車外へ排出ができることとする。

(2) コンプレッサーの油温上昇を知らせる警報ブザー等を設けること。

5 混合装置

混合装置は、左右ポンプ室に設けたポンプ操作装置内の液晶ディスプレイボタンスイッチで容易に操作が行えるものとし、泡流量計、泡中に含まれる水のみ流量、混合圧計、気水比、泡質、原液濃度を表示すること。

なお、混合比の変更は放水中でも左右から可能とする。

6 消火薬剤

消火薬剤は、環境保全型クラス A 泡消火薬剤とし、車両の指示する位置にポリタンク (20 L) 式の原液タンクを設置し、容易に吸引及び補充等が行えること。

また、現場活動中、消火薬剤が無くなった場合、迅速に外部より消火薬剤を吸引できる外部吸液装置を設けること。

なお、固定型の薬剤槽は設置しないこと。

7 泡圧力調整機能

初期消火、残火処理及び雑草火災消火用等、あらゆる場面で C A F S を使用する

ため、泡放射圧力を0.3MPaから1.0MPaまで任意で調整ができる構造とすること。

また、どの圧力での泡放水時にも、混合比を維持し泡消火性能を有するものとする。

8 泡消火機能

左右ポンプ室に設けた液晶ディスプレイ内の操作で、コンプレッサーを停止して混合水での放水切替えができること。

9 安全装置

(1) メインポンプから混合配管に給水されない限り、泡薬剤は混入できない構造とすること。

(2) 水と泡薬剤が混合配管内を流れていない限り、圧縮空気が注入できない構造とすること。

(3) 泡薬剤が無くなった場合又は泡ポンプが停止した場合等、圧縮空気の吐出を自動的に停止させる安全機能を搭載すること。

ただし、停止した場合においても、一時的に水のみでの放水に切り替わるものであること。

(4) 一般財団法人日本消防設備安全センターによる評定試験に合格したものであること。

第13 収納庫

1 器材収納庫及び収納箱（詳細別途協議）

(1) 収納庫及び収納箱は、附属品を積載できるよう空間を無駄なく活用して設計すること。

また、附属品は走行中に移動、脱落及び破損がないようその特性を考慮して確実に取付けること。収納庫に棚を設ける箇所については、可能な限り可動式とし、仕切りを設ける場所はパンチングボードを使用すること。

(2) 底部には樹脂製スノコ板等の保護材を必要箇所に敷き、水等が溜まらないよう排水口を設けること。

また、車体上部の収納箱については、車体から30mm以上浮かして取付けることとし、水等が溜まらないよう収納箱に排水口を設けること。

(3) ポンプ室両側のアルミシャッター式（鍵付き）器材収納庫内

ポンプユニット上部に資器材収納ボックス（縦600mm×横1260mm×高980mm以上）を設け、ボックスを上下2段に区切ること。また予備のクラスA泡消火薬剤（20L）2缶を収納できるようにすること。

ア) 左側シャッター内収納ボックス上段

上段左側に予備ボンベ4本（エアウォーター製ブルネッカー530CⅢ）を2段積みで収納し、上段右側には伸縮コーンを4式収納すること。

イ) 右側シャッター内収納ボックス上段

上段にガス測定器及びレシプロソーが収納できるスペースを確保し、固定金具を取り付けること。

ウ) 収納ボックス左右下段

65mmホース5本及び40mmホース7本が収納できるスペースを確保すること。

エ) 収納庫側面スペース

収納庫側面スペースには、吸管スパナ、ノズル23mm・26mm、キャップ用スパナ等を取付けること。

またスペースを有効に活用するため、指示する箇所にフックを取付けること。

オ) 収納庫内スペース

無線機スピーカー（左右）、無線受話器ボックス（左右）を有効的に配置及び取付けすること。

また、収納庫内スペースにある水槽の外側に位置する左右の場所に、片側にはパンチングボードを可能な限りの大きさに設け、パンチングボード下部には折りたたみが可能な奥行200mm程度の台座を設けること。もう一方には、取外し可能なバー（S字フック付）及び折りたたみ式台座を取付けること。

(4) 左側面後部シャッター内収納庫

アルミシャッター（鍵付き）器材収納庫とし、上下2段となるよう仕切りを設け、下段の収納高を340mm以上確保し、上段はパンチングボードで左右に区分すること。

ア) 収納庫上段パンチングボード左側

3段の棚を作成し、下段から発電機、コードリール、投光器を収納すること。

また、投光器を収納する最上段には、後部（背面）側シャッター巻き取り部と並行する空間に投光器用三脚を収納すること。

イ) 収納庫上段パンチングボード右側

下段にホースバック（特殊ノズル「クアドラ」1、媒介金具、40mmホース2本及び65mmホース【3m】1本）を収納し、上段に取外しが可能なバー（S字フック5箇所以上）を取付け、救助ロープ一式（30m2本、20m1本、10m1本以上）等が収納できるようにすること。

また、ポンプ室側シャッター内収納庫と後部シャッター内収納庫の仕切りについても、パンチングボードとし、クリッパー及びS字フックを5箇所取付け滑車等が収納できるようにすること。

ウ) 収納庫下段

収納庫上段の資器材を取出し及び収納するためのアクセス用スペースを設け、それ以外のスペースを最大限活用しエンジンカッターを収納すること。また、予備ディスク、工具及び燃料携行缶（500ml 3缶）も同スペースに収納できるようにすること。

(5) 右側面後部シャッター内収納庫

アルミシャッター（鍵付き）器材収納庫とし、巻き取り吸水管を収納する。

また、巻き取り吸水管中央スペースを有効に活用し、スタンドパイプ、65mm管そう、地下式消火栓キー、吸管ちりよけ籠（ワンタッチ式ストレーナ取付け）及び吸管ロープを、ブラケット等を設け取り付け収納すること。

その他のスペースを有効活用し、吸管まくら木及び媒介金具2個を取付けすること。

(6) 後部（背面）シャッター内収納庫

アルミシャッター（鍵付き）器材収納庫とすること。下部には手動式昇降装置付きホースカー式を収納し、ホースカー上部に器材収納庫を設けること。

ア) 上部収納庫

上部収納庫右側には、ステンレス製の可搬式収納箱を設け、オグラ製電動コンビツール一式、グラスマスター、レスキューシザー及びクリッパー等を収納すること。

左側には、可能な限りでスペースを確保すること。

（資機材収納は別途協議）

また、左右の仕切り板のフリースペース側に、矢印板2枚をバンド等で取付けすること。

イ) 下部収納庫

下部収納庫には、手動式昇降装置付きホースカー式を収納すること。また、後部ボックス内最下段には収納箱を設け、可搬式ウインチを収納し走行中に脱落しない構造を施すこと。

ウ) その他

上部収納庫右上部スペースのシャッター巻取り部後ろ側に、艀装骨組みに干渉しないよう、クラスB消火薬剤（20L）2缶が収納できる収納庫を設け、天井部から取り出しできるように艀装すること。

上部収納庫左上部スペースのシャッター巻取り部後ろ側に、上下可動式かつ取外しが可能なバーを取付けすること。

(7) 左の後輪前側に収納箱を設け、扉は引き下げ式（ステップ兼用）とすること。

なお、収納箱内は可動棚を1枚取付けし、床面にはスノコを設けること。

(8) 左右の後輪タイヤハウスは、引き下げ式ステップ兼用とすること。

(9) 車体上部

車体上部は、スペースを有効活用し収納箱等を配置すること。

ア) 左側

三連はしごを積載し、その付近のスペースに一連はしごを積載すること。

また、収納時に当本部の仕様を満たす車高となるよう艀装すること。

さらに、右側のスペースにエアフォームノズルを、ブラケットを設け取付けること。

イ) 中央

棒吸管4本を、縦積みで収納装置を設け搬送できる台座を設けておくこと。

ウ) 右側

右側にガスダンパー蓋付きアルミ縞板製収納箱を、可能な限りの大きさと1箇所設けること。高さについては、積載状態である三連はしごの最高部と同等の高さとすること。

また、蓋の内側には、斧を取付けること。

エ) その他

車体上部には、スペースを活用して消火器及び剣先、角スコープをブラケットを設け取付けること。

また、後部（背面）シャッター内収納庫の上部に収納した資器材を、車体上部から取り出す開口部を設けること。

- (10) キャブ上部はアルミ縞板製作作業台を設け、三連はしご等が干渉しない場所にガスダンパー蓋付の収納箱を可能な限りの大きさに設けること。高さについては、350mm以下とすること。
- (11) 車輪止めを左右に2か所ブラケットを設け収納すること。
- (12) その他資器材の収納については、本仕様記載の資器材を重量配分等に考慮をしてバランスよく積載できるように製作すること。
また、昇降用折りたたみ式タラップから、車体上部へアクセスするスペースについては、資器材を配置しないこと。
※詳細は別途協議とする。
- (13) 夜間の作業が容易に出来るよう、必要箇所にLED照明灯を設けること。
なお、点灯及び消灯は、収納庫の扉及びシャッターの開閉によるものとするが、必要箇所には単独SWを設けること。
- (14) 金てこ、地上式消火栓キー、吹田市専用消火栓キー及び水槽用パールキーを助手席側、車両艀装部分に取付けすること。
なお、取付けについては、ブラケット等で固定及び収納する他、車両側面から取り出し及び収納が容易にできるようにステンレス製ガイドを設けておくこと。
(別途協議)

第14 外装部

1 塗装

車両鋼材部分の下地塗装は充分錆落としの上、防錆性能が高く長期にわたり錆の発生を防ぐ二液型エポキシプライマー（ハイパーエポキシプライマーSSM）を使用し、パテ、サフェーサ（ウレタンプラサフSSM）を施工後、十分に乾燥させてから、ハイソリッド型ウレタン樹脂消防用朱色塗料により2回以上の塗装を実施し、その上には光沢と耐候性向上のためクリア塗料（ハイパークリアLW）を2回以上施すこと。塗装後は磨き作業により塗装表面を整えること。（タイヤホイールは除く）

なお、アルミシャッター及びシャシフロントマスクのグリル等についても消防用朱色塗装を施すこと。

2 その他の塗装

ポンプ、シャシフレーム等は、メーカー標準色、器材収納庫はシルバーで入念に吹き付け塗装を行うこと。

3 配管塗装

ポンプ配管は防錆性、防食性に優れたカチオン電着塗装とすること。

各配管には、動力消防ポンプ規格による塗色を施すこと。

4 ネームプレート及び明示ステッカー

各操作レバー、バルブ、コック類には、永年使用により文字が消えないプレートを貼付けすること。

艀装部分において、強度等の制限がある場合は許容荷重等をステッカー等で明示すること。

5 塗料は環境に配慮され、労働安全衛生法に基づき定められた特定化学物質障害予防規則対応品を使用すること。

第15 艀装材料・厚さ

1 艀装材料

材料は、すべて日本工業規格に基づいて精選された耐久性に富むもので、国が行う補助の対象となる消防施設の規格に示す強度以上のものであること。

2 厚さ

厚さは、国が行う補助の対象となる消防施設の規格に示す数値とし、ステップ、リヤフェンダー上部及びその他必要とする部分は、縞鋼板とすること。

第16 特殊艀装

1 バッテリー

バッテリーは、点検が容易にできるように引出式とすること。

また、容量は12V-130AH以上を2個以上（納車時新品）とすること。

（乗降の妨げとならないように留意すること。）

2 座席

(1) 助手席はメーカー標準シートを飛鳥車体制の空気呼吸器一体型シートに改造すること。

(2) 後部座席の背もたれ部分背当て部分を低くし空気呼吸器の着装に支障がない構造とし、ウォーカーウェイを3基取付けること。

また、座席に着席している状態で、空気呼吸器の着装が可能な高さに艀装すること。（別途協議）

3 後部座席下収納

後部座席下には収納庫を設け、小型充電器及びインバーター本体（1000W）を取付け、それ以外のスペースに小物が収納できるようにすること。

また、小型充電器のランプが確認できる窓をポリカーボネイト製で取付けすること。（位置等は別途指示）

座席下助手席側の精密機器取付け部には、鉄板等を設け機器を保護することとし、運転席側及び助手席側には、小物等が容易に取り出せるよう、大型ロック装置を設けた扉を側面に設置すること。

座席足下には、弁慶及び万能斧を、ブラケットを設け取付けすること。ブラケットは乗降の際、接触危険がないように設けること。

4 オイルパンヒーター及び小型充電器[SA-12PW-M]

(1) オイルパンヒーター及び小型充電器を設置すること。

オイルパンヒーターコード接続により、交流電源がオイルパン及び小型充電器へ通電するよう艀装すること。

また、小型充電器とバッテリーを接続し、オイルパンヒーターコード接続時にバッテリーが充電できるようにすること。

(2) オイルパンヒーターコードの差込口は蓋付のボックスとし、マグネットにより脱着できるように改造すること。コードについては、15mのものとする。

(3) コードは漏電、感電しない構造とし、コードの自重で脱落しない構造とすること。

(4) オイルパンヒーターコード接続時に、オイルパン及び小型充電器へ通電していることを確認できるランプをそれぞれ運転席付近に設け、容易に視認できるものとする。（位置等は別途指示）

(5) オイルパンに接続するラインには、入り切りスイッチを設けること。

ただし、オイルパン入り切りに関係なくバッテリーへの充電は行えるようにす

- ること。(位置等は別途指示)
- 5 メインスイッチ
メインスイッチは、バッテリーから直接電力を供給されているもの以外は、メインスイッチOFFですべて切断できるものとする。こと。
(1) メインスイッチを運転席付近に取付けすること。
(2) メインスイッチはON、OFFが確認できる視認性が良いランプを取付けすること。
※シャシで標準装備されているメインスイッチがある場合は、メインスイッチの取付けは不要とする。
- 6 電源コンセント
AC100Vの電源コンセント2口をキャブ内前後に2箇所(USB対応)、車外に1か所(合計使用量が1,000W以上)設置すること。(位置等は別途指示)
- 7 保護板及び反射シール
すべての艀装箇所において、隊員の乗降り、器材の積み降ろし等により、塗装箇所
に損傷を与える恐れがある箇所には、アルミ製保護板等を張付けすること。
また、各扉兼ステップを展開した際に出る側面に反射シール(黄色)を貼り付け
すること。
- 8 デパーチャーアングル
路面との接触防止のため、デパーチャーアングルを可能な限り大きく設計する他、
車両最後部の補強を行うこと。
- 9 メッキ仕上げ
消火栓金具、放水媒介金具、中継用媒介金具、吸水管金具等はアルミ合金製とす
るが、手摺などメッキ可能なものは、すべてクロームメッキを施すこと。
- 10 文字記入
文字は、すべて左から右書きとすること。車両納入前に、ステッカーの剥がれ等
がないことを入念に確認すること。
また、使用後もステッカーの剥がれが発生しないような貼付けとすること。

※詳細別途指示

(1) キャブ左右

前側ドアに当本部が支給するロゴマークを貼付し、後側ドア窓枠下側に「吹田市
消防本部」、下部後方に「北ST1」(白色反射カッティングシール、丸ゴシック文
字、影なし)を表示すること。

(2) 車両正面

フロントガラス上部に「SUITA FIRE DEPT.」(白色反射カッティングシール、
丸ゴシック文字、影なし)を表示すること。

フロントガラス下部の助手席側に「吹田消防」(白色反射カッティングシー
ル、丸ゴシック文字、影なし)、運転席側には「北ST1」(白色反射カッティング
シール、丸ゴシック文字、影なし)を表示すること。

(3) 車両後部

当本部が指示するデザインで、「吹田市消防本部」及び「SUITA FIRE
DEPT.」(赤枠反射白色塗りつぶしカッティングシール、丸ゴシック文字、影
なし)、「OSAKA」(赤色反射カッティングシール、丸ゴシック文字、影な
し)を表示すること。

(4) 車両左右側面

アルミシャッター全面には「SラインUITA F. D.」（白粹塗りつぶしなし反射カッティングシール、丸ゴシック文字、影なし・デザインは別途指示）を表示すること。

(5) キャブ上部

「吹田北ST1」（白色カッティングシール、丸ゴシック文字、影なし）をできる限り大きく表示すること。

(6) その他

車両には、フロントマスクを除く周囲にデザインライン（黄色カッティングシール）を当本部が指定する幅で表示すること。

なお、キャブ左右後部のデザインラインの中に「OSAKA」（赤色反射カッティングシール、丸ゴシック文字、影なし）、車両左右前側アルミシャッター部のデザインラインの中に「CAFS」（赤色反射カッティングシール、丸ゴシック文字、影なし）を表示すること。

(7) 資器材

当本部が指定する資器材に、「S」（デザインあり）、「吹田消防」、「SUITA FIRE DEPT.」、「OSAKA」（丸ゴシック文字）を3段書きカッティングシール等（詳細別途指示）で文字入れすること。

11 不凍液注入装置

不凍液注入装置は、色水給水装置と兼用とし、ポンプ室左側に設けること。

12 モーターサイレン・スイッチ

キャブ上部にモーターサイレンを1個取付け、助手席側に足踏み式一段スイッチを設け、運転席側の操作が容易にできる位置に押しボタン式二段スイッチを取付けすること。

13 電子サイレンアンプ

大阪サイレン社製「TSK-D152 Mark-D1」を取付け、マイクロホンMC-1Sを接続し、サイレンとマイクが同時使用できること。

また、後席にもマイクジャックを設けマイクロホンが使用できるようにすること。
（位置等は別途指示）

14 ICレコーダー

広報用にICレコーダー（オリンパス社製WS-883）を備え、スピーカーは電子サイレンと共用とすること。

※納入前に必ず外部へ正常に音声が出力できることを確認すること。

15 赤色警光灯

- (1) キャブ上部にウイレン社製FV10H1260mm吹田仕様を設けること。
- (2) スピーカー、標識灯付き（標識は黄色地に黒文字で吹田市と記入）とすること。

16 赤色点滅灯

- (1) フロントグリル上部左右にウイレン社製WIONSBR24を取付け、フロントバンパー左右にウイレン社製VTXFBR24を取付けること。（合計4か所）

※詳細別途協議

- (2) 後部（背面）上部左右にウイレン社製M6FR24（保護カバー付）（ULF28×1）を取付けること。（合計2か所）
- (3) 左右側面上部にウイレン社製M6FR24を前方及び後方部分に取付けること。

- (合計4か所)
- 17 作業等
- (1) 後部(背面)上部左右にウイレン社製M6 Z 2 4 (保護カバー付)を取り付けること。(合計2か所)
- (2) 左右側面上部に各2箇所ウイレン社製M6 F R 2 4を取付けること。
(合計4か所)
- 18 路肩灯
左右後輪前方に後輪照射灯(LED)を取付けること。
- 19 後端灯
車両左右の後端部の上下に後端灯を取付けること。運転席ミラーで確認できるような可能な限り張り出すこと。
- 20 照明灯
車体上部に照明灯(フラッシュボーイLED)を手動伸縮柱(フラッシュポール1000mm程度)で取り付けること。
伸縮柱は車体キャブ右後方下部より伸縮及び角度調整可能なものとする。また、ステッカー等で注意事項等を明示すること。
- 21 牽引フック
車両前後に外れ止め付きのけん引用フックを埋め込み式で取付けること。
また、かけ縄(ワイヤー)等が接触する箇所については、保護板等を貼付けすること。
- 22 各種電装品の電源
艀装に伴う各種電装品の電源は、メインスイッチと連動させ、スイッチの切り忘れなどによりバッテリー上がりを防止するため、キースイッチONで入り、OFFで全て切れること。
- 23 無線電話装置
当本部が所有する小型タンク車(型式:TKG-XZU640)から車載無線電話装置等を取外し、当本部の指定する車両に取り付けること。
また、当本部及び当本部の指定する無線電話装置工事業者と調整し適正に取付けるよう配慮すること。
- 24 指令端末装置
当本部が所有する小型タンク車(型式:TKG-XZU640)から指令端末装置等を取外し、当本部が指定する車両に取り付けること。
また、当本部及び当本部の指定する指令端末装置工事業者と調整し適正に取付けるよう配慮すること。
なお、艀装業者は、無線電話装置・指令端末装置を適正に取付けるため各業者に作業日程の調整を行うとともに、事前に電源及び配線等について打合せ及び調整をすること。

第17 補助規格取付品及び取付装置

品名	規格・形状	数量
1 ポンプ圧力計、連成計		各2器
2 赤色警光灯		
(1) キャブ上部		1式

	ウイレン社製F V 1 0 H (1 0 灯式) 1, 2 6 0 mm吹田仕様 標識灯、スピーカー付き (標識灯は黄色とし、吹田市【黒丸ゴシック】と記入)	
(2) フロントグリル上部及びフロントバンパー		4 灯
	ウイレン社製W I O N S B R 2 4 2 灯 ウイレン社製V T X F B R 2 4 2 灯	
(3) 左右側面上部		4 灯
	ウイレン社製M 6 F R 2 4	
(4) 後部 (背面) 上部 (保護カバー付)		2 灯
	ウイレン社製M 6 F R 2 4 (U L F 2 8 × 1)	
3 モーターサイレン	7 インチラップ型	1 式
4 サイレンアンプ	T S K - D 1 5 2 M a r k - D 1 マイクロホン (M C - 1 S) 2 個	1 式
5 照明灯	フラッシュボーイ L E D (フラッシュポール1000mm程度)	1 式
6 エンジン回転計		1 式
7 エンジン油温計		1 式
8 後退警報器	切断スイッチ付	1 式
9 電動サイレン	モーターサイレン (足踏み・ボタン式)	1 式
10 ポンプ操作装置	液晶ディスプレイ式 (真空計、ポンプ回転計、流量計、積算流量計含む)	2 式
11 キャブチルト装置	電動式 (安全装置含む)	1 式
12 オイルパンヒーター	車外マグネットコンセント・コード1 5 m付	1 式
13 不凍液注入装置	色水装置兼用	1 式
14 車外無線送話機取出口	蓋裏側ホワイトボード付 (ペン付)	2 式
15 作業灯		
(1) 左右側面上部		4 灯
	ウイレン社製M 6 Z 2 4	
(2) 後部 (背面) 上部 (保護カバー付)		2 灯
	ウイレン社製M 6 Z 2 4	
16 路肩灯	バス用A型 L E D 式	2 灯
17 後端灯	L E D 式M Y S M - L 8 - R Y (左右上下)	4 灯

第 1 8 補助規格附属品

品 名	備 考	数量
1 吸管	(右側用) 7 5 mm × 1 0 m ライフレックス吸管 (左側用) 7 5 mm × 2 . 5 m ライフレックス吸管	1 本 4 本
2 吸口ストレーナ		2 個
3 吸管ストレーナ	ワンタッチ式、ネジ式	2 個
4 吸管ちりよけ籠	樹脂製	2 個
5 吸管まくら木	樹脂製	2 個
6 吸管ロープ	1 0 mm × 1 0 m	2 本

7	消火栓金具	75mmメスネジ×65mm差込メス	1個
8	中継用媒介金具	65mmメスネジ×65mm差込メス	2個
9	消火栓開閉金具	地上式・地下式(1.0m)	1式
10	吸管スパナ		2本
11	管そう	YONE e-ノズルフォルダーPEH-65K 2本 PEH-40A	2本 1本
12	三段切替ノズル	横井制作所DA3(セットアップキットレンチ含)	2個
13	ノズル	23mm・26mm	各1個
14	放口媒介金具	65mmメスネジ×65mm差込オス	4個
15	とび口	東消型TS-6027 1800	2本
16	金てこ	φ25×850	1本
17	剣先スコップ		1本
18	ホースカー	制動装置付き吹田仕様	1式
19	ホースカバー	ホースカー用	1式
20	はしご	チタン製三連はしごMTTL-377 (全伸長7.7m以上重量28kg以下)	1梯
21	車輪止	硬質製(黒色)	4個
22	消火器	自動車用 (蓄圧式ABC粉末6kg型、リサイクルシール付)	1本
23	ポンプ工具	キャップスパナ	1式
24	ホース65mm	プロファイター・カラーホース・リング締め 使用圧力1.6MPa・長さ20m 金具アルミ合金製(蓄光保護リング付き) 綾織・袴部分は白色で長さおおむね40cm	40本
25	タイヤチェーン	後輪シングル 金属製	1式
26	分岐管	2コック65mm用AC(ヨネ) 2コック40mm用AC(ヨネ)	1個 2個
27	ホースブリッジ	コンパクトブリッジCB450	1式
28	牽引ワイヤー	14mm×5m (トヨロック・アイ部分を除きビニール被覆) 14mm×3m (トヨロック・アイ部分を除きビニール被覆)	2本 2本
29	照明器具 構成品		1式
	(1) 発動発電機	ホンダEU9i(インバーター仕様)	
	(2) 投光器	ヤマハ軽量2焦点型可搬式投光器(信号付投光器型) E-054(LED可搬式投光器)	
	(3) 三脚	E-054用	
	(4) コードリール	E-054用30m 発電機接続ケーブル含む ※蓄光ストライプケーブル仕様	
30	斧	柄グラスファイバー製	1本
31	スタンドパイプ	単口引上800mm差込L字接手AC(エルボー離脱式)	1本
32	特殊ノズル	クアドラフオグノズル	2式

33	ホース 40mm	プロファイター・カラーホース・リング締め 使用圧力1.6MPa・長さ20m 金具アルミ合金製(蓄光保護リング付き) 綾織・袴部分は白色で長さおおむね30cm	40本
----	----------	---	-----

第19 特殊取付品及び附属品

	品名	備考	数量
1	牽引フック	前後滑り止め付き	1式
2	ICレコーダー		1式
	構成品		
	(1) 本体	オリンパスWS-883 (同梱付属品) アクセサリー含む	
	(2) 電子サイレン (TSK5102・MARK-10 (50W))	接続コード (接続コードは、ステレオからモノラル用で抵抗なしのものとする。)	
	(3) 収納シリコンケース		
3	エンジンカッター		1式
	構成品		
	(1) 本体	K-970レスキュー	
	(2) 替刃 (鉄鋼用2箱)		
	(3) 専用工具		
4	ホースバック	プロジェクトガン用収納袋 (ヨネ) ネーム入り	1式
		ホース収納袋 (赤尾) ネーム入り	1式
5	吸水用ホース	65mm×5m キンパイ使用圧力1.6MPa	2本
		65mm×3m (色) キンパイ使用圧力1.6MPa	1本
6	吸水管用器具	スーパースイング	1個
7	吸管引上金具	ヨネPR75	1個
8	空気呼吸器		1式
	構成品		
	(1) 空気呼吸器	ドレーゲルセイフティージャパン社製PSSAirBoss×4	
	(2) 付属品	レギュレータホルダー×4 D-ring×16、BG1000ホルダー×4 Paratホルダー×4、FPS7000PEPDM (M×4、L×4) ×8 面体吊下用フック×8、アイピースカバー×8 くもり止め×1、プロテックスマスクバッグ×8 面体収納バッグ×8	
9	空気ボンベ	エアウォーター防災製ブルネッカー530CⅢ90°	10本
		保護カバー、金属キャップ付	
10	簡易呼吸器	パラート5510 2個、シヨルダーバッグ1個	1式
11	携帯型警報器	ボディーガード1000	4式
12	媒介金具	65mm差込メス×65mm差込メスAC	1個
13	〃	65mm差込オス×65mm差込オスAC	1個
14	〃	65mm差込メス×40mm差込オスAC	2個
15	携帯拡声器	ノボルTD-503R (ホルダーNZ-313付)	1個
16	木ハンマー	径75mm	1本
17	ストップバルブ	YONE製 BO-65、BO-40	1式

18	一連はしご	チタン製3.1m大鈎ワンタッチ式MTL-131	1本
19	エアフォームノズル	深田工業株式会社製 RP-200 調整コック付き200型(3%及び6%切替式)	1本
20	クリッパー	絶縁式、切断能力7mm以上 BC-600FN	1式
21	万能斧	トップマンとび	1本
22	角スコップ	幅250mm	1本
23	訓練旗	黒文字「訓練」ポール付き	1式
24	サルベージシート	3m×3m ネーム入り	2枚
25	電動油圧救助器具		1式
	構成品		
	(1) 本体	オグラ社 コンビツールBC-300BL(標準付属品含む)	
	(2) 付属品	バッテリー(BL1830)3個、防水カバー、ソフトケース	
	(3)	holmatro社製 PENTHEONリチウムイオンバッテリーPBPA287×3	
26	ガソリン携行缶	(消防法適合品) 5 ^{リットル} 鋼製ネジ式(GT-5) 500cc容器缶(BT-500)	1缶 3缶
27	ホースバンド	マジックテープ式 OH-1型バンド	5枚 5枚
28	布バケツ	10 ^{リットル}	5枚
29	携帯ライト	予備球2球付 ハタヤLED 防爆、防雨構造型 PEP-03D GENTOS LK-524D	2器 2器
30	バックモニター	後退時に電源ON設定機能付き	1式
31	ドライブレコーダー		1式
	構成品		
	(1) 本体	Driveman PS-2 タイプ2 (SDカード ^{脱着式} モデル)	
	(2) 付属品	SDカード(128GB×2) HDMIケーブル×1、ACアダプター×1 専用複合ソフト×1、PLフィルター×1	
32	安全誘導灯	ポータ工業製 RKC-BR9	2本
33	セフティコーン	伸縮式コーンALF-89	4本
34	矢印板	ポータ工業製 PYG-C2	2枚
35	反射チョッキ	株式会社ナカネ製 カスタムメイドベストB [吹田消防]と背中に記入(吹田仕様赤色)	4着
36	レスキューシザー		1式
37	グラスマスター	WGM-3サクラホース(株)	1式
38	軽量滑車	TR-300	3個
39	明示ステッカー	吹田市消防本部仕様 大、中、小(各50)	1式
40	エッチングプレート		1式
		車両長、幅、高さ、総重量、定員、登録番号、 最小回転半径、リヤオーバーハング、納入年月記入	
41	ロープバック	PETZL バケットS41Y35L×2	1式

	レスキュージャパンロープバック中サイズグレイ×2	
42	クラスA薬剤 マルチエース(200)	6缶
43	訓練用泡薬剤 CAFSトレーニングフォーム(100)	10缶
44	救助用縛帯 PETZL ピタゴール	1式
45	バッテリー充電器 (株)デンゲン 小型用急速充電器 HR-MAX-40D	1式
46	災害現場用簡易トイレプラダントイレ(便器)100回セット (ポップアップテント含)	1式
47	乾電池 積載品に必要とする電池	1式
48	色水装置用ホース	1式
49	補修用ラッカー スプレー式及び缶入り	1式
50	ステンシルプレート 「北」「ST1」「吹田消防」文字2.0cm角丸ゴシック	1式
	※耐久性に富むものとし、曲面に対しても使用可能なもの	
51	墜落制止用器具 藤井電工製TB-GB-521-SL-OR 130kgタイプ(新基準適合品)	1式
52	耐熱服 テイセン製ZK-5000 (上着、ズボン、手袋、銀長靴27cm、収納ハードケース※ネーム入り)	2式
53	ナイロン製三つ打ちロープ 東京製綱 12mm(白)×200m	1式
54	可搬式ウインチ チルホールTU-16(20mワイヤー付き)	1式
55	水槽用バールキー 日之出121型	1式
56	消火栓キー 吹田市専用消火栓キー日之出50型	1本
57	ポンプ用メンテナンスオイル	1缶
58	弁慶	1式
59	クーラーボックス LOGOS アウトドアクーラー Lサイズ (幅492mm、奥行278mm、高さ366mm)	1式
60	トラロープ 9mm×50m	1本
61	ひしゃく ステンレス製	1本
62	発煙筒 ロードフレイヤー	10本
63	マンホール用取手	2本
64	立入禁止テープ BT60A 60mm×50m	5本
65	油ねんど 500g	5個
66	吊り下げ用フック	20個
67	放射線防護服 テイセン製NUK-6000 (フード、続き服、手袋、長靴、合鉛入りシート入りインナーパンツ) 収納袋※ネーム入り	2式
68	ポケット線量計 PDM-501	2式
69	ガス検知器 GX8000 タイプB標準セットメタン仕様 乾電池ユニット、アルミトランクケース、浮子式ガス採集器(8m)	1式

第20車両特殊取付品及び付属品

品名	備考	数量
1	エアコンディショナー	1式
2	音声アラーム	音声(後退、左折)切断スイッチ付 1式

3	フロアーマット	前後	1式
4	サイドバイザー	前後左右	1式
5	メインスイッチ	バッテリー用（運転席）	1式
6	ブースターケーブル	24V	1式
7	スペアキー		3本
8	ドアエッジ	全ドア	1式
9	座席カバー	飛鳥車体制、全席	1式
10	非常用信号具	三角停止板、発煙筒 ライフライン2 GM製	1式
11	タイヤゲージ		1式
12	点検灯	LED式100V用5M	1式
13	フォグランプ		1式
14	サイドミラー	2面鏡式（助手席電動格納式ワイドビュー）	1式
15	インバーター		1式
16	標準工具	工具箱付き	1式
17	マップランプ	助手席LED式	1式
18	スペアタイヤ	205/85R16ホイール付き、マッド&スノー	1本
19	坂道発進補助装置		1式
20	小型充電器	WCMXS 50 J P C T E K	1式

第21 その他

1 現物支給品及び作製取付品

次に掲げる器具は、当本部から支給するので取付け方法等に注意すること。

(1)	レシプロソー	1式
(2)	緊急防災工具（幅210mm、奥行530mm、高さ195mm）	1式
(3)	泡消火薬剤	メガフォームF610AT 2缶

第22 備考

1 発注台数（車両リサイクル費用含む）

※自賠責保険及び重量税については当本部で用意するもの。

2 廃棄車両の引取り及び処分

更新車両納車後、現在使用しているポンプ車（車両型式:BDG-XZU334）を引取り、原則として廃棄、解体処分すること。廃棄車両の引取り日程及び場所については、後日指示する。

また、業者において、車体の名称表示を確実に消去するとともに、赤色灯、サイレン等の解体撤去を行い抹消登録の手続きを行うこと。前記手続き完了後は、直ちに当本部へ抹消済の登録事項等証明書の写し及び解体後の写真データを電子メールで添付送信し、すみやかに両原本を提出すること。

なお、上記引取り及び処分に関する手順に変更が生じた場合は、別途協議のうえ当本部の指示に従うこと。

3 ステッカー剥離及び貼付け

小型タンク車納車後に、指定する車両のカッティングシールを剥がすこと。
（車両の塗装に損傷を与えないこと。）

第23 問い合わせ先

吹田市消防本部 警防救急室

TEL 06-6193-1117

FAX 06-6193-0101

以上